

会 議 錄

<会議名称> 令和 6 年度 第 2 回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日>令和 7 年 3 月 6 日 (木)

<時 間>16 時~17 時 10 分

<場 所>岸和田市教育センター 1 階 視聴覚研修室

<出席者> ○出席、■欠席

(学校関係者)

田邊校長	池内校長	村澤教頭	西村教頭	何森教諭	川本教諭
○	○	○	○	○	■

(教育委員会事務局)

長岡学校教育部長 (委員長)	松本学校教育課長 (副委員長)	松本人権教育課長	村上指導主事
○	○	○	○

(学識経験者)

山口教授
■

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 委員自己紹介
3. 説明
 - ・小中一貫教育推進会議の目的・組織・役割等
 - ・各中学校区の取組み状況について
4. 意見交換等
5. 今後の予定

<当日配布資料>

- ・岸和田市小中一貫教育基本方針
- ・岸和田市小中一貫教育推進会議 設置要領
- ・小中一貫教育取組み状況一覧

1. 教育委員会挨拶

【長岡委員長】

皆さんこんにちは。来週には中学校の卒業式です。そして翌週は小学校です。年度末のお忙しいなか、ありがとうございます。小中一貫教育推進会議では、これまでの経緯や次年度に向けて、新たな科のことについては、まずは体制づくりを優先して、少し先送りし、推進については現在の方向で進めていくという形になりました。

本日は、各校区から提出された推進計画を共有させていただこうと考えています。よりよい小中一貫教育の推進にむけて、ご意見等いただきたく思っております。どうぞよろしくおねがいいたします。

2. 説明

【長岡委員長】

それでは次第の2つ目、「説明」です。各校区の「令和7年度小中一貫教育推進計画」について、事務局のほうからお願ひします。

【村上】

それではお配りしています資料をご覧ください。それぞれの校区の令和7年度の推進計画の特徴などを中心にご説明差し上げます。

まず岸城中学校区です。

岸城中学校区については、「短時間グループアプローチをもとにした仲間づくりの推進」、また、それぞれの取組が何をねらったものなのかを明確化しました。次年度、学力、授業改善、特別支援教育、生徒指導、この4つを柱に、この小中一貫教育に取り組んでいく計画になっています。

実施計画については、今年度非常にスムーズに行えたこともあり、基本的に今年度と同様の形をとる予定です。

続いて光陽中学校区です。

光陽中学校区については、中学校で取組を進めていた「学びあいによる学習活動」を校区全体で行うと記載されています。校区の柱として、「児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の推進」を掲げ、次年度キャリア教育部会というものも位置付け、取組を推進します。

続いて野村中学校区です。

野村中学校区については、中学校で取組んでいる「スクールワイドPBS」を校区で研修等を行います。「NOMU タイム」についても、中学校から小学校に出前授業の一環として行う予定です。

続いて桜台中学校区です。

桜台中学校区は、小中学校ともに共通の数値で実態把握を行いました。共通して、「家庭での過ごし方」、スマホ、SNSの使い方に共通の課題があると考えています。自己肯定感が小学校時と比べて、中学校で下降傾向にあることに着目し、学校生活や授業の中で自己肯定感を向上させるこ

と、授業改善を校区全体で図ることを目標に取り組む予定です。新たに、校区全体で人権教育の充実を上げ、小中合同で、生徒指導、人権教育などの研修を行う予定です。

続いて葛城中学校区です。

葛城中学校区については、「キャリア教育」の一環として、成績の基準や成績の付け方や、中学校卒業後の進路など、どのようなキャリア教育を積み上げて、将来の夢や目標に向かって取り組んでいくかということを柱に取り組んでいく計画になっています。また、組織体制においては、特別支援教育部会も、新たに加わっています。

続いて土生中学校区です。

土生中学校区は重点的な取組として、「ソーシャルスキルトレーニング」を行い、話す力、聞く力を醸成していくとともに、集団づくりにも活用していく予定です。そして身に付けた力を生かして授業全体で言語活動に取り組む予定です。また、9年間を通したキャリア教育に資するよう、キャリア教育の充実も掲げています。また、状況に応じて、各校の校内研修を相互参加したり、または資料を提供し合ったりも計画的に行う計画となっています。

続いて久米田中学校区です。

久米田中学校区については、全国学力・学習状況調査の質問調査中で、「平日にゲームやスマートフォンに3時間以上費やす児童生徒が53%から55%と過半数を超えている。」ことから、生活習慣の改善について校区全体で取り組む予定です。組織的には生徒指導、人権、特別支援教育、研究、4つの部会で、小中一貫教育を推進する計画です。

また、校区生徒指導担当者会を各校の輪番で行い、それぞれの子どもの様子や学校の雰囲気を見学し合うという取組も新たに計画に入っています。

続いて山直中学校区になります。

山直中学校区については、今年度に引き続き、それぞれの学校の研究授業を相互参観する取組を頻繁に行う計画になっています。そして、小中合同の挨拶運動も取り組んでいく予定しています。

続いて春木中学校区になります。

春木中学校区については、今年度児童生徒の実態を再度検証した計画になっています。取組としては、今年度同様、自尊感情とソーシャルスキルを育てる取組を校区全体で実践します。

校区の職員研修会をそれぞれ持ち回りで行う計画になっています。

続いて北中学校区です。

北中学校区については、この小中一貫教育推進計画ができる前から「あひるの約束」に取り組んでいます。「あ」は、「あいさつをしよう」。「ひ」は「人の話を聞こう」。「る」は「ルールを守ろう」。この約束を小中ともに、校内で共有していましたが、さらに浸透させられるような取組を行っていく計画になっています。

また、小中間だけではなく、小小間の学校見学を行ったり、情報交換を行ったりすることも特徴的な取り組みです。10月と2月に校区フェスティバルを地域と一緒に行い、地域と一体となって小中一貫教育を推進していくという計画になっています。

最後に山滝中学校区です。

山滝中学校区については、めざす子ども像に向けた重点的な取り組みとして、授業の基本的なルールを統一し、3校が足並みをそろえて、定着に取り組むことを計画しています。情報共有やお互いの往来の頻度をふやすという計画になっています。また、7月に、全国学力・学習状況調査の分析を合同で行い、子どもたちの得意な分野や苦手分野について、研修を行い、理解を深めるという計画になっています。

以上が次年度の小中一貫教育推進計画についての説明です。

【長岡委員長】

事務局から、来年度の各中学校区の計画についての説明でした。前回の会議でも、委員の方から、この会議や中学校区で行われた会議の内容が、学校の先生にまで伝わっていないという話もありました。そのことも踏まえ、先生方への周知徹底を図って欲しいと、校長会や校園長会でもご案内させていただきました。次年度の計画について、各学校の全員の先生方が共有して進んでいっていただけたらと思います。委員の皆さんからご意見等ありましたらお願ひいたします。

【松本課長】

今回、村澤教頭が来られているので、質問ですが、野村校区の「家庭・地域との連携・協働による取組」についてですが、懇談会で、子ども自身が学習の成果を教員、保護者に説明するとありますが、小学校も行う予定ですか。

【村澤委員】

小学校は保護者と担任のみで懇談を行っているので、基本的に中学校の取組になります。だた、中学校に行ったら、こんな取組をしているよ。と6年生等に伝えている。

【松本課長】

ありがとうございます。池内委員にもお伺いします。桜台中学校区の組織体制について、人権教育担当を新たに作ったそうですが、学習支援に関する情報交換もその中で行うのですか。

【池内委員】

校区全体で人権教育の推進に注力する予定で、様々な連絡会や情報交換会で学習や学力保障について協議をする予定です。

【長岡委員長】

他はよろしいですか。それでは、報告を終了とし、続いて意見交換ということで、今年度の取

り組みの成果と課題ということで、今日お集まりの委員にお話していただけたらと思っています。池内委員からよろしいですか。

【池内委員】

はい。今年度の取組の成果と課題ですが、小中一貫教育について、各部会の長に集まっていたので、中学校区の夏期研修について協議をしました。夏季研修は子どもたちの自己肯定感をあげる、PBSの取組について行いました。常盤小学校では、様々な掲示物にPBSの視点を取り入れているということで、桜台中、光明小の教職員が実際に見て、参考にさせていただきました。研究部会では各学校において取り組んでいる仲間づくりについて協議を行いました。本校はスリンプルプログラムに取り組んでいますので、紹介をしました。また、学校で行っているミニ研修の紹介も随時行っています。WEB上でも参照できるようにしています。特別支援教育では、対応の工夫や子どもたちの様子を共有したことが、非常に有益だったと聞いています。あとは教職員間で交流をしたりすることができました。

【田邊委員】

今年度小中一貫教育に取り組んで、すごくよかったと思うのは、池内委員もおっしゃっていましたが、夏季合同研修の実施したことです。各部で集まり、各校の現状と課題を出しながら、「めざす子ども像」の実現に向けて、どのような取組が必要かを具体的に話し合うことができました。各校で持っている情報やノウハウを交流することで、先生方の学びにつながったと感じています。小学校3校でも方向性を確認できたことがよかったです。その中で、具体的な取組も共有できたという面でいい取組ができたと思っています。生徒指導面や、各校で取り組んでいる研究授業や研修も参加できるようなつながりを確認できたことがよかったです。次年度も子どもたちのためによりよいものにしていけるようにと考えています。

【西村委員】

山直中学校区の小中一貫教育会議の中では、子どもたちの実態を再確認し、学力面、生徒指導面などで協議をしました。学力では各校の授業を参観しましたが、タブレットの使用や授業のルールなど、共通して整理する必要性を再確認しました。相互授業参観も過度な負担にならないように工夫をしながら取り組んでいければと考えています。生徒指導面についても、授業のルールなどを校区として整理していくように考えています。小中ですれのないような指導ができるようだと考えています。校長会でも周知をするのと同様に、教頭会でも私から発信をし、周知に努めています。

【村澤委員】

本校は、ほとんどの児童が野村中学校に進学する小学校なので、中学校が取り組んでいることを、一緒におこなうという感じで取組んでいます。まずは、PBSについてですが、子どもたちの良さを認め、できるようになったねとか、次はこうしようねというような前向きな声掛けを心がけていくように、今年度より取り組んでいます。野村中学校で取り組んであるスリンプルプログラムも、小学校からも、研修に参加させていただき、生徒に実施していることを見せてもらって、

それを子どもたちに実践していこうと、3回、中学校から来校いただき、進め方、やり方を小学校に見せていただきました。その後、小学校で2ヶ月ぐらい実践した後、2月、10月に再度中学校の先生に来ていただきて、見ていただくということを行いました。いろいろ意見交流を進めながら取り組んでいます。取り組む中で、特に低学年でトラブルが少し減少したように思います。

【何森委員】

私の方からは、自分の学校の取組ということではなくて、推進会議に出席させていただいた成果と課題をお話ししたいと思います。小学校の職員代表として、現場の人にとってどうであるかという立場でお話しします。現在、教員の多忙化も異常だというような状態になっていますし、欠員や残業も常態化している中で、前回もお話しましたが、量はできるだけ減らしたい。しかし、質は、保ち或いは高めたい。という中で、増やした分だけ減らすべきだと提案してきました。今回も池内校長から負担軽減の話が出たということは、個人的には一定この場では、職場の多忙化を進めるような形にはならないようになっていることは成果かなと感じています。一方で課題として、これまでの記録をいつも持ってきてますが、2年前は、推進会議では、いろんな意見が出され、それがどのような形になっているのかがよく見えないということをお話しました。会議録もですが、議事のまとめはありません。それは今も変わっていないと思います。それから、負担が大きくならないように、現場の教員にちゃんと説明をして欲しいと思います。それをどの学校でもちゃんと説明できるように文書を作るべきだと思います。取り組みの報告と合わせて、どのような風に軽減したのかということも調査していただけるという話があったかと思います。それは、調査することが目的ではなく、そういうことも考えてこの取組を進めていく必要があることを現場の教員にも知っていただき必要があると思います。取組を現場に聞くと、現場の教員は頑張りますので、逆にこういうところを工夫して負担軽減しましたということを書く部分があれば、現場の教員も頑張るであろうという趣旨で発言をしました。それがどのように今後生かされていくのかということを含めてまとめていただきたいと思いますし、それが現状どのようにになっているのかということも報告してほしいと思います。それが課題だと思っています。

【長岡委員長】

今、委員の皆さんにいろいろご報告いただきました。また、提案も何森委員から提案も含めていただきました。それも含めて、委員のみなさんから何かございますか。今、令和7年度の校区の推進計画はもうできていますので、校長先生や教頭先生、そして担当は各学校にいますので、来年の4月に小中一貫の方向性を、必ず周知してもらうということは必要じゃないかと思います。現在もしていただいていると思いますが。前回の会議でも、そのような話題があったので、さらに周知徹底を図る必要があります。さらに、定期的に職員会議等の場で出していただけるとよいと考えています。また、業務軽減についても、このような方法で軽減を図れた等、プラスの面でもご意見があれば、出していただきたい。

【池内委員】

本校区は小中一貫教育のモデル校区となっており、小中一貫教育の目標を決めた時点で、中学校の学校教育目標と合わせる形でスタートした。4月のスタート時にもそれを確認して共有すると

ころから始まっています。負担軽減の部分については、先ほど人権教育を加えたと言いましたが、生徒指導も含めて、未然防止が一番大事だと考えています。昨年度、校区で生徒指導10のルールを協議して統一したので、小中どちらも同じ指導ができるようになったことで、未然防止につながったと考えています。

【長岡委員長】

事案が発生しないようにという視点で考えると軽減が大きい。事案発生時も初期対応が大切と言われますが、初期対応を間違ったがために、膨大な時間をかけざるを得なくなつたこともあります。他の委員の皆さん方からも、これは軽減につながっているんではないかというものがあれば、出していただきたい。

【松本学校教育課長】

それぞれの学校の取組を聞かせていただいたが、そもそもともとやっていたというものが多く、それをしっかりとスライドして工夫して取り組んでいただいていると思います。何森委員がおっしゃっていたように、校長会で、今月もお伝えさせていただきましたが、しっかりと職員に周知をというのは引き続き行います。軽減の部分は、学校教育課として、指導主事の方が出向かせていただいて、来年度も評価していきたいと考えています。小中一貫教育について校区研修で取組んで、そこで指導主事が話をさせていただく機会等も設けていただければと思います。多忙や欠員というと別の話になってくる部分もあると思いますが、課題として受けとめさせていただきます。

【何森委員】

おっしゃっている趣旨はわかりますが、僕はもう少し直接的な話をしています。確か前回の会議でも、各校に調査するときに、例えば、取り組みをするときには授業を短縮するとかして時間を捻出するとかで軽減するとか、直接的な話が必要ではないかと思います。先ほど話されていたように、間接的な軽減も大切なと思いますが、そのような大きな枠について話をしているのではなくて、ずっと戻ると、ここでこのように話をしていることや、やろうと思っていることが、どのように実施されたのか。ということがあまりよくわからないということを、申し上げています。各学校で、調査されたのか、或いはする予定なのか。ぜひしていただいて、自分がよかれと思って、或いはこういうことが必要と発言したことが、どのように反映され、或いはどのように反映されなかつたのかということが大切なことだと思います。それがまさに成果と課題だと思います。こういう発言があったらこういう意味で、そこまでしないでいいだろうとか、一方で、こういう発言があって、なるほどそうだから、ではやってみましょうということがあったならば、それをやった結果、こうだったとかというようなことが必要だと思います。

【松本学校教育課長】

何森委員がおっしゃっていることは、理解しているつもりです。例えば、そういう話を校長先生にさせていただいている学校もあります。学校によつたら、午後の授業をカットして研修をしている学校もあれば、カットしていない学校もあります。最終は校長先生にゆだねています。な

かなかカットして研修を実施しなさいとはできません。調査もそのような視点ではできていません。ただ、多分各々の校長先生は、すごくいろいろ考えてやってくれているっていうのも、情報で聞いています。

【池内委員】

例えば、小中合同の日程の持ち方では、今年度は8月の第1週の午前中に実施させていただきました。しかし、先生方もこのあたりに休暇が欲しいということで、次年度は午後の授業をカットして実施するといった具体的にできる形で示しながら取り組んでいます。減らせるることは常に考えながら計画しています。

【長岡委員長】

今のお話、整理させていただきますね。この推進会議が、各学校の取り組みを徹底するという機関では基本ではないと考えています。ここで決まったことを必ずしなさいっていう話ではありません。ただ、各中学校の校長会、教頭会、教員の皆さん代表として集まった会なので、ここで、こういう取り組みがすごくいいよ、課題を解決しているよということを広めるということが大きな主旨だと思います。そういう意味で、先ほどの報告からも、WEBでの授業参観とか、そういうものがすごく負担軽減、行く時間が少なく済むので、そういう取り組みが功を奏していますというような取組を発信していくというのも1つの方法だと思います。あと来年度に向けてになるかもしれないですが、来年度の1回目のときは、軽減がすごく功を奏したというような項目を作つて、それをここで共有して、何森委員からは、議事録のお話がありましたが、議事録を作成して各学校にメールで周知するという方法も考えられるのではと思います。

【何森委員】

会議録とか議事録とか方法論ではなく、内容の話をしているんですね。つまり、この推進会議の設置要綱を見ると、審議することもあり、推進するという目的もあるので、推進する上で必要なこと、或いは課題となること。こうした方がいいのではないかということを少なくとも提案する立場にあると思います。中には、「新たな科」のように決めざるを得ないようなこともあります。審議といったときに、ここで話した内容が、このような方向でいきましょうということをまとめるべきだと思っているんです。これが目的であって、それが、会議録であろうが、議事録でそれは別に構わないと思っています。こういうことを、努力しようとなりましたとか、こういう方向性にしたほうがよりよいだろうと、各校に通知或いは提案することになりましたということがなければ、発言そのものが、どのように生かされ、生かされてないのかよくわからない。先ほど池内校長から、工夫も示されてありがたいと思っているんですが、この場の話で、全ての学校が、そのように工夫することで、量は減らすが、質は高めるという学校づくりをしていくべきではないかと思っています。そういう話が必要だと、全ての学校の管理職の方も含めて、より良くするために、負担を大きくせずに、質は高めるということをどのようにするのか、という中で、増やした分を減らそうとしている学校の取り組みを、みんなが共有できる方法がないのかということとともに、調査のときに、新たな取り組みができるような環境を作りましたかという質問項目を1つ加えることで、そのことも、学校が意識できるようになるだろうという話をして、

前回調査をする方法でいきましょうという発言もあったので、それはどのようになっていますか。今すぐにして欲しいというわけではないですが、今後それはしていく方向にして欲しいです。ここでお話したことがいい方向にいかないと、何が成果で何が課題だというようにわからなくなってしまうのではないかと思います。

【長岡委員長】

今のお話の中で、この会議をまとめて各学校に推進会議としては行うので、協力してください。という形にすれば、各学校もわかりやすいと思います。今やっている方法は、会議録を読めば中身は全部わかるんだけど、今の何森委員さんのお話の中で、担当者がこれを読んで全部また理解して各学校についているのは、非常に困難だと。もう少しわかりやすく、時間が短縮できる方法があつたらいいのではということですね。この会議録は学校に送っていますか。

【村上】

ホームページにアップしております。

【長岡委員長】

各学校に会議録をまわすという方法はどう思われますか。

【池内委員】

この会議は小中一貫教育を推進する会議ですので、その中で各校区で先生方が負担に感じていることがあれば、それを軽減するのは各校区になると思うので、そのような意見が出てくれれば、どのように改善したのかということを共有する機会はあってもよいと思います。負担軽減会議でなく、小中一貫教育を推進するにあたってという部分を話す会議だと思います。

【長岡委員長】

委員さんの意見の中で、負担軽減のことも一緒に総合的に考えていくほうがいいんではないかというご意見なので、そこも網羅して総合的に話をするということだったと思います。

【何森委員】

私が言いたいのは、前回、調査をするときに、1項目、このような業務改善というか、負担軽減したという項目を追加して欲しいと伝えました。そして、そういう調査をやっていきましょうとなった。或いは、その予定はどうなっていますかとことです。内容をしっかりとわかつていただくのは管理職の先生で、会議録も多くの先生は読んでいないのではと思います。

【長岡委員長】

来年度の第1回目の会議の際に進捗状況を確認する際に付け加えます。今、委員さんからありました。管理職が説明するよりも、本来なら、担当者が一番知っているというのが大事だと思っているので、先生が、ビルトアップを考えていくことが、学校が進むと思うので、そこも含めて、管理職も当然のことながら、担当者を中心に、共有していくらしいなとは思います。

他意見交換の中で何かございますか。よろしいでしょうか。では、報告と意見交換について、議事が終わりました。この後、4番については事務局の方に戻します。

【村上】

次第の4番のその他に移ります。次年度の予定について少しお話をさせていただきます。来年度につきましても今年度と同様に小中一貫教育担当者会の実施を計画しております。このことにつきましても校長会教頭会等でも、アナウンスをさせていただきます。よろしくお願ひします。

以上をもちまして令和6年度第2回岸和田市小中一貫教育推進会議を終了とします。

ありがとうございました。

